

昭和四十七年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議録第三号

館山市議 会



目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
議案第七十号	二
議案第七十一号	六
議案第七十二号	一
議案第七十三号	一
議案第七十四号	一
議案第七十五号	一
議案第七十六号	一
議案第七十七号	一
議案第七十八号	一
陳情書	一
日程の追加	一
発議案第八号	一
閉会	一
本日の会議に付した事件	一

一、昭和四十七年十二月十五日（金曜日）午前十時  
一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一番 吉田 勇治郎	二番 林 豊
三番 流山 源次郎	四番 鈴木 稔
五番 近藤 好雄	六番 栗原 一雄
七番 渡辺 昭夫	八番 石井 武敏
九番 辻田 実	〇番 渡辺 軍治郎
一番 藤田 益治	一番 五十嵐 昇
二番 伊賀 多朗	二番 和田 一郎
三番 伊賀 多朗	三番 宮野 敏朗
四番 辻井 謹爾	四番 宮野 敏朗
五番 安西 益男	五番 島野 茂樹郎
六番 安西 益男	六番 鈴木 市蔵
七番 塚喜三	七番 鈴木 敏博
八番 田村 源治郎	八番 菊井 義男
九番 安沢 順	九番 飯田 中祿郎
十番 望月 照正	十番 田中 祿郎
十一番 秋山 六三郎	十一番 遠山 ヨネ子
十二番 秋山 六三郎	十二番 遠山 ヨネ子

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和四十七年十二月十五日午前十時開議



日程第一 議案第七十号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二 議案第七十一号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第七十二号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

日程第四 議案第七十三号 館山市老人医療費支給条例の制定について

日程第五 議案第七十四号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第六 議案第七十五号 館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第七 議案第七十六号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算(第七号)

日程第八 議案第七十七号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

議案第七十八号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

日程第九 陳情書

開 議 午前十時十五分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十六名 これより第

四回市議会定例会第三日の会議を開会します。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

この際議事について申し上げます。議案第七十号乃至議案第七十八号にかかる議事案件の内容説明は先日の会議のうちに終っておりまうので直ちに質疑より行ないます。

### 議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、議案第七十号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

### 質疑応答

○一〇番(渡辺軍治郎君) 清掃労働者の手当についてですが、し尿処理の労働者については六百円を八百円にというふうになっていますが、ごみの清掃労働者の手当がこれは四百円から五百円と百円きざみになっている。

同じ清掃労働者の給与の改訂について本給で操作するのが一番妥当だと思ひますが、いろんな事情もあると思ひますので、手当て上げるといふのは一応了承します。

けれども、一方は二百円アップして一方は百円のアップということでは、これは現場で非常にきかない仕事に従事するそういう従業員を優遇するという立場からみて、これは同じように二百円アップするのが妥当だと思ひますが、その辺はどういうふうにお考えになつてゐるのか。



○人事課長（小沢正治君） 特殊勤務手当の意味というものは一応本俸で調整するよりも、手当関係で調整すべきであるという関係で、手当であるわけでございます。

そこで、一応内容的には非常に普通の労務よりも骨がおれるとか、条件が悪いとか、あるいはまた非常にきつられるとか、そういう一応関係の度合に応じて考えられる額でございます。

一応ごみと尿とを比較した場合のきつならしさというよりも、尿の場合は普通きたならしさのほかに、さらに特殊ガスの発生等による危険度がかかりあるわけでございます。そういう関係でくみ取りにかけ回るわけではございませんで、藤原の処理場に勤務する者の待遇でございますので、そういう面が非常に強いわけでございます。そういうような関係で従前の四百円に対する六百円という差額が一応あつたわけであります。

さらに尿の関係では御案内と思ひますけれども、他地区ではガスの発生で死亡事故まで発生している実態があるわけでございます。これは設備にいろいろ配慮いたしましても従事する職員の知識の関係やら配慮の関係でそういう危険な事態につながる場合が多々あるわけでございます。

そういう一応関係を配慮いたしまして、ごみよりも尿のほうがその程度の差があつてしかるべきであるという考え方でありまして、

○一〇番（渡辺軍治郎君） 取り扱い上の、そういうことで差をつけるということになりますと、これはやはりし尿処理場に勤務する人も確かにそういう点はあるかもしれませんが、しかしごみの処理というのは夏臭気が相当ひどい中で労働してまうし、冬は寒い中で、とにかく週何回ということでは相当の労働、そしてかなり悪

臭やそういう中で仕事をしているんですから、当然これは差をつけずに上げるのが妥当だと思ひます。そういう点ではこの改定案には不満です。

○九番（辻田 実君） 第七条の扶養手当につきまして、この三項中二千二百円を二千四百円に、六百円を八百円、千四百円を千六百円に改めるといふことが提案されているわけでございますけれども、一昨日の説明の中では内容については伺いましたけれども経過についての説明が十分でないようでございますので、その点について伺いをいたしたいわけでございます。

経過というのはどういふことかといふと、この値上げについては職員組合との交渉の中で出てきたものなのかどうか、さもなければ上部団体、その他のそういう機関において、交渉によつてきまつてきたものか、市独自でもつて必要性があつたので提案されてきたのか、その経過について御説明を願ひたいと思ひわけでございます。

○人事課長（小沢正治君） 当初御説明申し上げましたように人事院勧告に基づくものでございます。

人事院勧告でもそういうような勧告がなされ、さらに県の人事委員会の勧告も同様のものであつたし、そういう関係のものは本俸の、いわゆる給料表の関係と、それからこのような扶養手当、通勤手当、あるいは住居手当、児童手当、そういう一応関係の取り扱いにつきましては全て人勧に基づきましてそれに準ずるといふ形を長い間とつて参りましたので、この関係につきましては、特に扶養手当につきましては市独自の方向はとつておらない、そのために一応職組との交渉は全くもっておりません。



〇九番（辻田 実君） この中におきまして、同七条の三項中の三の中で扶養親族について一人四百円という部門については据え置きになっていきますけれども、この点についてはどうしてこの項だけ据え置きになったのか。これは据え置きになるのかどうなのか。この四百円のアップということについて全然触れておられないわけですので、この四百円は脱落なのか、これは据え置きになっているのかどうなのか。この点についてお伺いしたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君） 第七条の第三項中の千四百円は千六百円という改定でございます。

〇九番（辻田 実君） この条例の原案の扶養親族については二号から五号までの一人につき四百円とするということになっているわけですが、これが全然いじられていないけれども、これはこのままなのか、これはどうなっているのかということです。アップになったのかならないのか。この原案はこのまま生きているように解釈できますけれども、生きているというふうに解釈してよいのかその点について御説明を願いたいということでございます。

〇人事課長（小沢正治君） 四百円は改定になっておりません。

〇九番（辻田 実君） 市長さんにお尋ねをいたしたいと思いがよろしゅうございますか。

私は市長さんはかねがね老人福祉、さらには乳児、幼児等について非常に力を入れておられると思っております。そこでこの条例を扶養手当の改定にあたりまして、確かに人事院勧告がございましたけれども、老人の手当、子供の手当、不具者の手当、こういう恵れない人の手当は四百円据え置きでございます。

市長さんは本当に老人に力を入れておられるのなら、むしろ本

当にわれわれ従業員、市の職員が年寄を大事にしようということになれば、やはり年老いた人の扶養手当というものが重視されなければならぬわけでありまして。そして市民に対して年寄を大切にしないということ是非常に啓蒙しておきながら、肝心かなめの扶養手当の年寄ですね。親や、ひいじいさん、さらには子供、こういうものの手当を据え置いていっちゃって、さらには不具者そういうものも据え置いてほかのものを上げていくということについて私は若干ふに落ちない。

市長さんのかねがね唱えておられるところの福祉優先というところがかなりぼけるといいますけれども、この点については改定するにあたってなぜ考慮されなかったのか御説明を願いたいと思います。

〇市長（本間 謙君） なかなか辻田さん幾ら福祉でも市町村においてはそんなにとっさり満足するようなわけにはいかない。それは財源がないし、国家がやるべきですよ。これは大きな地方の政治の問題としてやるのが妥当であるし、私は館山市の財政においてできる範囲においてやりますが、いま御指摘の点ももったもだと思えますよ、いま直ちにやることはできませんから、今後考えてやっていきます。

なかなか市町村ではそんなに全部全部国がやるべきこともほとんどんやるといふこともできませんけれども、館山市では少なくともどこよりも進んでおられると思います。まあ今後大いにおっしゃる点についても検討してまいりましょうけれども、現段階においてはこのまま御了承をいただきたいと存じます。

〇九番（辻田 実君） そうおっしゃるわけでございますが、先任



どの人事課長の説明がありますように確かに人事院勧告、また県のそういったところの勧告等があって上げたわけでございましてこの面について私は本当に市長さん自身が討議されておれば当然この市の条例の中に、私読み上げますけれども、「満六十歳以上の父母及び祖父母」そして第五項の「不具廃疾者」このものについては四百円ということになってゐるわけです。これは手当としてあるわけなんです。この項だけを落としちゃったということについては、これは国や県という問題じゃなくて市の給与条例のその中の扶養手当になるわけでございます。

国のほうはそういったことをやっているわけです。当然館山の市長さんのいままです政策、そういうものでいけば、むしろ私はそういう祖父母、父母の手当を普通の子供並みに上げるんじゃない、また不具者等についても上げていいんじゃないかというふうに考えるわけがあります。

特に実際の生活面を見てまいりますと、一番困るのは不具者がかかえたところの家庭であるわけがあります。そして不具者の親族手当というものが一番低いと、こういうことが一番現実問題として困るわけでございますので、こうした面についてはやはり私をもっと考えてもらわなければならぬんじゃないか。

この点についてある程度の見通し、この次なり是正するという方向が出されるのかどうなのか。私はそれによつてはこうした問題を今後の問題だということでもって軽率に流して、そしてここに出ておるところの子供、廃疾者の手当を上げることはいいいわけでございますけれども、こうしたところの見通しについて御意見を伺った上でこの議案に対するとおの態度を明らかにしたいと

思うわけでございますので、その点について明確な御答弁をいただきたいと思うわけでございます。

○市長（本間 譲君） 四百円を増してくれとおっしゃるわけですか。

○九番（辻田 実君） そうです。

○市長（本間 譲君） いまここでやるわけにはいきませんけれども、これは重要なことですから、あなたのおっしゃる通りに、新年度もありますから、新年度あたりでは十分考えて、財政とにらみあわせてそういう趣旨に合うように私もやりたいと思いますから御了承願いたいと思います。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。

#### 討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 先ほどの人事課長の回答では差をつけた理由が臭気とかそういうようなことを上げておりますけれども、実際の働く面からいけば同じような状況の中で清掃労働者がみんな働いているんです。むしろごみの労働者のほうが寒い中で冬労働するとか、夏の臭気の非常にはなはだしい中で労働するとか、そういう中でむしろここに差をつけること自体がおかしいと思うんです。



したがって、この二百円アップ、一方は百円アップというふうに差をつけたことには異議があります。

そして管理者手当ですが、管理者手当については百分の八を百分の十にというふうに、むしろ管理者の手当は削ってもこういう清掃労働者の手当のほうに回すべきが親心というか、市の立場に立った考え方ではないかと思うわけです。したがってこれを修正されない限りこの七十号議案に対しては反対いたします。

○九番（辻田 実君） 先ほどの質疑の中でもってある程度出されておりますけれども、私はこの給与条例七条の扶養手当につきましては、この原案そのものについては賛成をいたします。

しかしながら、意見といたしまして、先ほど質疑の中で明らかにされましたように第七条三項の三の六十歳以上の父母、祖父母の扶養手当について四百円据え置くということについては、やはり本市の趣旨からいって非常に問題がある。したがって、これをさらには六月、三月の予算議会等においてひとつ考慮していただきたい。先ほど考慮していただきたいというお話がありました。再度この点については考慮いただきたいと思います。

さらには五の不具、廃疾者についても、これは一番給与所得者にとつては困る問題でございますので、社会福祉の面からも不具、廃疾者の手当を同じく四百円で据え置かれるということについては前項と同様でございます。

この点についてはひとつ御考慮を願いたいというふうに思うわけでございます。この点を要望いたしまして、要望意見として出しまして、この原案について賛成をいたしたいと思います。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第七十一号館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十一号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

## 質 疑 応 答

○九番（辻田 実君） この中におきますところの原案というか、条例の十五条が九条として改定されるわけでございますけれども、この現条例の十五条の三項「組合休暇は、一日または一時間を単位として与えるものとする。ただし、一暦年につき三十日をこえて与えることはできない。」ということになっておりますけれども、この三十日というのは第十五条の一項との関係についてはどういう関係にあるのか。この点についてお伺いをいたしたいと思います。



〇人事課長（小沢正治君） 第三項は断続の場合で、第一項は継続の場合です。

〇九番（辻田 実君） しががしまして、私はこの第三項の一暦年について三十日という条文について今日の労使関係等からまいりまして、むしろここでもって九条を十五条に改定する、そしてその他については全面的に条例を改正する中においてこのただし書きについては削除してもいいんじゃないか、本文だけでただし書きの必要性はないように思われますけれども、この点についてどのように考えておられるか。

また、この点について戦組等において話し合いがなされた経過があるのかどうか。話し合いの経過があったら、その内容等について発表していただきたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君） 具体的に、特にこの問題を取り上げて話し合いということはございませんでしたけれども、情報的にはこの時点でいろいろあったわけでございます。

これは一応自治省から出されました準則案でございまして、準則どおり取り扱いをしたわけでございますけれども、具体的には当市の場合は問題が全く生ずる余地がないという関係で、空文化的な条文であるということで問題になっているわけではないわけでありす。

と申しますのは、理事者側においてこういって関係についてそれほどきびしく取り扱っておらないという実態であるという関係から、賃金カットの問題は、特に多少でも公務に関連性があればそのほうでもって時間を考えていくという姿勢でございしますので、具体的にこのような問題は起こらないという前提を踏まえてのこ

とでございます。

〇九番（辻田 実君） そういうことであればなおさら条文の整理を全面的に改定したわけでございますので、一昨日からの論議の中で非常にその自治省の勧告とか、それから県とか国でこうなったからこうなんだという館山市の主体性のない答弁が非常に多いわけでございます。しががしまして、私もむしろ自治省からこういったことで制限がなされておるのでこうなっておると、これが問題になっておらなければただし書きとかというものについては必要ないわけでありすから、むしろそういうようなものについては制限するような条例もかえていただいたほうがいいんじゃないかというふうに思われますけれども、この点についてはいまの答弁でもってあまり問題になることはない、全くないということでございますから、これを将来はずしてもいいんじゃないかと思うわけでございますから、この点についてはどうかということとを第一点。

第二点目に特別休暇の基準の中について新しく改定されようとする九項でございます。現条例の十一条の生理休暇の問題でございしますけれども、ここにこのようになってるわけでございしますけれども、館山市の場合に現実問題として生理休暇はどの程度、何というんですか、活用されているというところでしょうか。大体パーセンテージでけっこうですから、この現況についてひとつ御答弁をいただきたいと思ひます。

〇人事課長（小沢正治君） 第一点の関係でございしますけれども、これはやはりいやすくも市の法規としての条例の立てまえ上、当



然にやはり地方公務員法の第二十四条の關係がひつかかってくるわけでございます。要するに他の地方公共団体との權衡を失しないように配慮しなければならぬという關係があるわけでございます。そういう關係で自治省も全国に対してのそういう通達を出しますし、その場合にそういうときにはこういう方向で進んでほしいという要望が出るわけでございます。それに一応準拠した形は整えておくという配慮はやはり必要であるという關係、しかしながら實際具體的な運用については十分配慮していきたいということでございます。

それから第二点の女子職員の生理休暇につきましては、實態としてはたしてあるかどうかというような程度でございまして、正式の手續きとしてなされたのは従前当市の關係ではほとんど見当たらないという状態です。

〇九番（辻田 実君） 特別休暇の九項の問題について、まずこういう問題は私は安房地区労の事務局をやっておるわけでございますけれども、いろいろな職場においてこの問題が婦人部員より出ております。實際にその手續き、その他の關係からいってとりたいたいだけどもとれないという悩みが非常にあるわけでございます。こういった点については職員組合等においてかなり問題になっておるわけでございますけれども、館山市の職員については私直接聞いてないわけでございますけれども、やはり同様のものがあるんじゃないかというふうに考えられますけれども、この場合条例上どうしても女子職員が請求した場合に、どうしても請求の過程において若干こういうたぐいの問題ですからしづらいと、それが結局妨げになって、現実問題としていま課長の答弁のように

ほとんど件数が少ないということでは、本条例の趣旨が生きていないわけございまして、職場によりましてはかなり五〇ぐらいの休暇が活用されておるといふことも伺っておるわけでございますので、そこらへんについてはこの条文についても前の条文とほとんどかわりありません。したがいまして、そういう点についてこの期間の中に女子職員が請求した期間ということになっておりますけれども、こういう条文の中でこういう点については改善されるようなあい路というものが見いだされるのかどうか。

そういう点で人事課長としてどのようにしたらこの条文を生かすことができるのかどうか。これは現実問題としてあるわけですから、あるにもかかわらずそれがとられておらないということについては、やはりこれは条例の趣旨に反するわけでございますけれども、そういう点についてのひとつの方法というものはないのであるか。ないとするとこのまま前の条例と本条例を改正しても全く死文化してしまう条例になるわけですので、若干考えなければならぬ点もあるわけでございますから、この点についてどのようにお考えになつてゐるのか御質問いたしたいと思ひます。

〇人事課長（小沢正治君） こういう特別休暇に関する類別の提起したという關係につきましては、先ほどから申し上げておりますように公務員法二十四条の均衡性の問題、したがってよそにあって館山市にははずされておるといふことが起こらないように、極力国家公務員、県職にあるものを全部網羅していくという立場を取つたわけでございます。

この中で實際に休暇がとられていないものは置く必要がないということになりますと、これはやっぱり實態に即しました統計上



の問題としてやっていかなければならないと思ひますけれども、特にその中で職員の生理休暇につきましては、これはいろいろな事情と要素があるわけでございまして、これがとりやすくなるようにすることにより、別に新たな近代的なものを、実際に他の職場で起きている事実も聞いておるわけです。

この職場の全体的な傾向としては非常に女子職員のそういう関係につきましては関心もございまして、それ以前にかなり健康であるということ、職場がそういう生理上の問題に支障をきたすようなところがほとんどないというような事情もあるうかと思ひます。

さらに最も問題となります職員がとりたいたときにとれる環境づくりということが大事であると思ひます。その関係につきましては常に課長会議等において、こういった関係を積極的に進めておりますので、現在の状態では職員がからだの具合が悪いのに休めないという環境は全くないというふうに理解しております。

○九番（辻田 実君） 私が質問した中において、この条例が必要ではないということじゃなくて必要であるわけなんです。必要であるけれども、現実の問題としてパーセンテージが上がってきてないということについては、そのものからくるものなのか、それとも運用面にあるものなのかどうなのか、という点についての質問なわけでございます。条例的には問題がないということであれば運用面にあるわけでございますから、運用面については議会外でもってやってもらえばいいわけでございましてけれども、そういった点についてはどうかということをお尋ねしたわけでございますので。

二十四条の他の市町村との関係ということを非常に強調されておりまして、しかし他の市町村になくとも、館山市は市の職員、また市民の問題であるから、この面について話し合いがされるようなものが配慮されなければならない。全面的にということじゃありませんけれども、漸進的にでもそういう方向が出て差しつかえないわけでありまして。そういった点についてどうかというところをお尋ねしたわけでございまして。大体結論は出ておりますようにでございますので、その点について明確にしたいだきたいと思ひます。

○人事課長（小沢正治君） 具体的に特定の個人が生理休暇をとりたいという場合に、ほとんどとりにくいという環境には全くなっていないというふうに理解しております。

○二番（田村源治郎君） ちょっとお尋ねします。職員の結婚は七日間、これは職員本人の結婚であつて、職員の家庭内の結婚に對しては何にも設けていない。

それから忌引休暇の基準については配偶者が十日間で、一親等の直系尊属は七日、卑族は五日というこまかい数字になっている。何ゆえに職員の結婚だけが七日で、その家庭内の尊属者においては休めないのか。それらの点はどうして、ただ七日という基準で出したのか、この説明をひとつお願いいたします。

○人事課長（小沢正治君） 御意見ももっともな点もございましてけれども、慶弔関係で慶事関係はわりあいそういう配慮してございませぬけれども、弔事関係では人が亡くなられた悲しみに対する配慮がなされているという関係から大分伝統的な、歴史的な問題でございますけれども、公務員関係の扱いにつきましてはこのよ



うに経過してまいっておる。これは現在調整されてこういう形になってきておるといふことでございます。

〇二二番（田村源治郎君）

死亡は悲しい、喜ぶことは悪いか、現在の職員の中には必ず家庭内に結婚がある、本人だけが七日もらって自分のうちのときには休むことはできない、二日分くらいのはあれは当然家庭内にもすべきだと思います。いつの間にも結婚だけで、そのほかには休むことができないのか。二日分くらいは、なぜ死んだのはこまかくて、家庭内の結婚に二日ぐらいあげるのは当然認めなければならぬものであらうと思います。本人だけが七日だ。尊属と自分の兄弟でも結婚だったら二日ぐらいは休みたい。何とか公然とすべきがあたりまえだろうと思います。本人だけが七日以内、この点をどう考えているのか。また、だまってくれてやるというなら、市長の配慮でいいけれども、これに関連するのなら、これは困る部分があるじゃないかと思ひます。

〇市長（本間 譲君） 田村さんのお話を伺って、まったく人間味のある、まったく同感しました。

やはり、実際は自分の子供が結婚するとき公然と休めないといふことはこれは無理がありますね。あるいは兄弟とか、一日ぐらいは公然と休暇をやることは、私はあなたの言うことは正しいと思ひます。あなたにいま教育されたわけですよ。

これは、ひとついますぐ間に合いませんけれども、いろいろ検討して、そういうことが実現されるように私も検討をいたして、あなたのお話に沿いたいと考えております。どうぞよろしく。

〇二二番（田村源治郎君）

いま市長さんから現実にはこれは二日とか三日とか、そのうちによっていろいろ子供とか、尊属というも

のについて公然と休まれるようになることを、私は切に願って質問を終わります。また必ず実行していただくように、報告があることを要望いたします。

〇一〇番（渡辺軍治郎君）

特別休暇の一一項なんです、この特別休暇の基準の中で一一には父母の祭日というふうに書いてあります。そして期間が慣習上最小限度必要と認められる期間という非常にあいまいな表現になっているんですが、こういう事例においてひとつ御説明願いたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君）

社会の一般慣習に従って差しつかえないというより行政実例になっているわけでありまして。それには初七日、四十九日とか一周忌とかということ、当然職員がやはり世帯主の場合その父母の祭日を行なうときに居なければならぬというような、社会一般慣習においてどうしてもそれが必要であるという形において許可することができるということになってゐるわけでありまして。したがいまして、これも現在までについてほとんど適用実例はございません。

〇一〇番（渡辺軍治郎君）

説明のように、この一般社会通念からいきますと、親の祭日、そういうようなものに出席するとか、それをやるために休暇をとるとか、そういうようなことがあり得ると思ひますけれども、いままでほとんど事例がないというような、そういう説明であります、その項はここにおいても慣習上最小限度必要な期間ということでは判定に非常に苦勞すると思ひます。たとえば親の一周忌とか、そういうようなことで具体的にそういう事例が多くて、そういうことに出席するために苦勞しているという実例があれば、そういうような項目を上げてはつきり



とした、やっぱり幾日の休暇とか、そういうことは決めるべきです。決めるのが本当だと思ひます。これでいくと、ただ莫然と父母の祭日といつてもいろいろあるわけですよ。そして期間をきめるにしても慣習上最小限度、そういう表現になつてゐるんで、この項は何もここに入れなくても削つて、もっと具体的になつたときにこういう項を入れてもいいのではないかと、いうふうに考えますがどうですか。

○人事課長（小沢正治君） 大綱を一応条例で議決をいただいて、そういうこまかな運用関係については、市長が大綱の条例の趣旨をいかして規則で、あるいはまた運営要綱等ではきりしていただきたいと思つております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 了解。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略することに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。

#### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） 直ちに採決に入ります。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。よつて本案は原案どおり可決されました。

#### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第七十二号 館山市国民健

康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十二号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

#### 質 疑 応 答

○二〇番（君塚専三君） 第三項となつております療養の給付を受ける被保険者で七十歳以上の者、これに適用除外のただし書きがついてゐるわけですが、これは次の七十三号議案の第三条の適用除外に関連するものでございますが、それに老人福祉法第十条の二の規定によりというのがございますが、老人福祉法第十条というものの一項には、市町村に對しまして六十五歳以上の者に対する定期健康診断の義務づけがあるわけでありす。その二項というのは、その定期健康診断によつて必要と認めるときには必要な指導を行なわなければならないという義務づけがございます。そこで私はお伺いするんだが指導という解釈なんです。これは通俗的には教え導くということで、この指導には医療給付というものが含まれてゐるのかないのか。

まずその点をお聞きしたい。

○福祉事務所長（斉藤武男君） お答え申し上げます。

この老人福祉法が四十七年に改正されました、法律第九十六号になつてゐるわけでございますけれども、この新しい条例ではこの十条の二ということで、市町村長は当該市町村の区域内に居住地を有する七十歳以上の者の疾病又は負傷について健康云々ということで、今回改正されてございますので、君塚議員さんのお



持ちのものは前のものであろうかと思ひますので、ひとつよろしく。

〇二〇番（君塚喜三君） 大変失礼しました。四十六年、昨年の六法全書でありましたので、そのように。ではその点につきまして は終ります。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託を省略することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって委員会付託することは省略されました。

討論ございませんか。――討論なしと認めます。

#### 採決

〇議長（吉田勇治郎君） 直ちに採決に入ります。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

〇議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第七十三号館山市老人医療費支給条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十三号 館山市老人医療費支給条例の制定について

#### 質疑応答

〇一九番（島野茂樹郎君） この条例については私は賛成でございます。ましてとやかく申し上げるつもりはございませんが、ただ手続きのことでお伺いをしておきたいと思ひますが、具体的なことで教えていただきたいのです。

たとえば、私も共済組合等から五〇%の給付ということで、五〇%は自己負担ということになっておるわけでございますけれども、これはそれぞれの共済組合なり健康保険なりで率というのはいろいろ違うようでございますけれども、その五〇%払った中で、さらに組合員に払った分の中から還付すると、いろいろな名前をつけて還付される、したがって実際の自己負担は二割なり、あるいは三割というふうなことになるわけであります。この条例が実施されますとそういうものがどういう形で、医療機関にはおそらく全然払わんでもいいということになるかと思ひますが、そうした場合の決算というんですか、そういうのは一体どこでどういうふうにしてやるのか。しかも館山市だけということになりますと、これは全国的な組合を持っているような健康保険組合とか、そういうようなことではここはそれだけどもそれは違うという、そういうアンバランスが当然出てくるんですが、その辺をどういうふうに調整をなさるのかということが疑問なので、手続きの一つとしてお教えいただきたい。

それから規則で定める手続きに従つてということなんです、これは自分が医者に行つたとき特別な手続きをするのかどうなのか。その辺を合わせて御説明をいただきたい。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） お答え申し上げます。この所得制限にかかわる関係につきましては、御承知のように



国が今回実施しないわけでございます。来年の一月から実施したいということで準備をしているわけですが、さらに県内におきましてもこの所得制限にかかわる該当者につきましては、やらない市もありますし実施する市もあるわけでございます。

当館山市におきましては、各議員さん皆さま方の御理解をいただきまして該当する、約百二十名程度だと思っておりますけれども、この実施したいということで今回お願いしておりますわけでありすが、手続きといたしましては、先般医師会、歯科医師会とも協議をいたしまして御了解をいただいております。

今回発行されますのが、国の<sup>(寿)</sup>というような老人健康保険の受診証というものが出るわけでございます。それと従来の国民健康保険、あるいは政府管掌のいろいろな保険がございますが、その保険証を持って治療にかかるということになるわけでございますけれども、問題はこの付加給付金の関係でございます。いままでそういういろいろな関係がございまして、いわゆる現物給付をしてもらいたいというようないろいろな要望があったわけであります。これらの手続きの問題がありまして償還方式というようになことで病院の窓口で御不便をかけていたわけであります。これを支払い資金というものがあつたわけでございます。こちらともいろいろ協議をいたしまして御了解いただいて実施するわけでございますが、この七十歳以上の老人医療といひましても、これはやはり御本人が申請をしていただかなければ該当にならないということであります。申請していただきましてその受診者証を発行するわけでございますが、その際に、付加給付金の関係につきましましての委任証書をお預りしておるわけでございます。そうしましてい

ろいろな共済組合保険でありますとか、各種保険の付加給付金の関係がまちまちでございます。そういうようなことで各企業体との話し合いを資金の方からしていただきまして、一応病院の窓口では自己負担分については現物給付でございますので御迷惑かけないで、そういう支払い資金、組合、そういうような関係の調整をとりまして付加給付金の関係を処理してまいりたいということになっております。

館山市内というようなことであるわけでございますが、いろいろ郡市の医師会の御協力をいただきまして、安房郡関係全部が一応足並をそろえて今回実施しようというようになことで、医師会とも御協力いただいて実施になるわけでございます。以上。

〇一九番(島野茂樹郎君) 了解しました。

〇議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

〇議長(吉田勇治郎君) 本案を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。

#### 採決

〇議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程



○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第七十四号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十四号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の

一部を改正する条例の制定について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案について委員会付託並びに討論を省略することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。

#### 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第七十五号館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十五号 館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例

の一部を改正する条例の制定について

#### 質疑応答

○二二番（田村源治郎君） この佐野児童遊園で大体子供の対象は何人であるか。

それから広さ、坪数、設備、そういうものをちょっと聞かしてもらいたいと思います。

○福祉事務所長（斉藤武男君） 佐野部落の子供の数でございますが、非常に少ないんでございますけれども、約四十名から五十名の見当になっております。

施設は一応児童遊園といたしますと二百坪以上ということになっておるわけでございますが、当地区は砂を取ったあとがございますまして非常に範囲が約倍くらいの坪数になっているわけでございます。それで施設は大体四十万円ということで、県が二十万、市が二十万ということで相なって施設があるわけでございますけれども、通常のブランコ、すべり台、ジャングルジムとか、そういうものを一応六つ備えてございます。

○二二番（田村源治郎君） 佐野全体で子供が六十人対象であるというけれども、事実現在佐野をちょっとみても遊んでいる子供は何人もいない。ただ設備をつくればいいといつてぼこんぼこんとつくるよりも実際に適用する、つくっちゃったら子供は三人か四人でそれでいいと、ただ地区地区に遊園地をつくつたらいいというもののじゃない。佐野あたりは交通のそんな危険性のないところである。どこでも広くて遊園地はつくれる、そこを確保しなくてもいいようなところで、かくまってやる必要性のないところでかくまっても、子供のいないところで、はたしているのかいないのかただつくればいいからとつくつて実際に利用されるのか。

その点において私は自信があつたらいいと思います。自信がな



いといったらちょっと考えさせてもらう。(笑い声)

○福祉事務所長(斉藤武男君) 大変ごもっともな質問でございます。私も設置するにあたりましてそういう点を十分考慮したわけでございますが、非常に最近住宅がふえてまいりまして、住宅ができてからあとから児童遊園地をつくるということになりますとなかなか土地の確保が非常に困難であるわけでございます。でございますので私どもの考えといたしましては、地元の御協力のできる地区につきましてはできるだけ児童遊園地をつくっていただきたいという考え方をしておるわけでございます。

たとえて申し上げますと、北条地区あたりでは児童遊園地をつくりたくてもその場所がないという状況でございます。現在過疎地区でございますけれども、非常に地元の理解もございまして、子供に対する情熱もございます。また将来あの場所につきましてはいろいろ考えられる場所でございますので、現在は過疎でございますけれども設置したというようなことでございます。

ひとつよろしくお願い申し上げたいと思います。

○二二番(田村源治郎君) いま住宅が多いと、住宅が何軒ふえてるか、人口はどのくらいふえてるか、将来を見込んで開発されるんだが、人口はふえていない、あそこは純然たる農家だ。松原地区と藤原地区と違って佐野地区というのは農家の住宅が多いところなんだ。たとえ遊園地を造って、ブランコをつくってやったってしょうがない。将来を見込んであなたが開発されるんだから、将来土地が高くなるからつくっておくという、そういう説明じゃ責任感がないじゃないですか。将来家が建つからあそこは開発される見込みだからつくったというなら私は賛成しますけれど

も、そのつもりでやったんじゃないんですか。

○福祉事務所長(斉藤武男君) お答え申し上げます。大変ごもっともな質問でございます。当初私もそのように考えたわけでございますが、あそここの地区は佐野青年館もつくりましたが、非常に地元の方々の子供に対します理解が強いわけでございます。そういうことで本来の目的に使用できるものという確信のもとで施設したわけでございますので、よろしくお願いいたします。

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) 本案について委員会付託並びに討論を省略することに御異議ございませんか。御異議なしと認めます。

#### 採決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前十一時 十六分 休憩

午前十一時 二十六分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

#### 議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第七、議案第七十六号昭和四十七年



度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案第七十六号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算（第七号）

### 質 議 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○三番（流山源次郎君） 二一ページの共同加工資材倉庫の設置補助金の三百六十万というのは船形地区の加工業者に対する補助金ですかどうか。

○水産課長（谷貝茂生君） そのとおりでございます。

○三番（流山源次郎君） この補助金につきましては、水産課としてはこれはあくまでも加工資材の倉庫であるのか。そういう嚴重なる調査において決定をしたのか。それをお聞きしたいと思ひます。

○水産課長（谷貝茂生君） 設計、その他参考資料は全部いただきまして純然たる資材倉庫でございます。このように考えております。

○三番（流山源次郎君） 実は共同加工資材倉庫ということで、漁協関係としても非常に話し合いをもった時点におきましては共同加工場という資材の置き場だというように趣旨でございましたが、県の水産課に対しても、水産事務所に対しても共同加工組合なるものがいままです船形地区において資材倉庫だという名目で町のまんな中に倉庫をつくってしまつて申請の許可をとつて、それで何をやってゐるかといへば魚があつた場合に魚の加工場をつくつて町中にくさい公害、その問題を出してしまつて周囲の人が反対の

陳情なんかたびたび市に持ってきたといういろんな以前からの問題があつたんです。それで漁協といたしましてもこの加工場をつくるということについては、あんた方はいままですそういうことをしているんだから資材の置き場という名目でつくつてしまつて、魚なんかあがつた場合にその資材倉庫でそういうものをやるということに対して地元民が反対を起こしちまつて、そういうことは絶対ないんだらうなというのをいって念を押しているんですが、あの連中はつくるときには資材倉庫だということをやつておるんですが、できてしまつと魚なんかあがつた場合には応急に何もかもやつてしまふ。一年を通してやつてゐるわけじゃなくして魚があがつた瞬間瞬間に夜の夜半にたき仕事をやつてしまつて、市なんかに陳情に行きますと今度は全部片づけてしまつて資材倉庫だという例がいま船形の町の中にあるんですよ。

幸いにして今度の加工場の設置の事業所はそういうもくろみのものでなければ、われわれとしても水産の関係において補助金が出たわけですからありがたいと思うんですが、そういうことで水産課のほうで異状がないといへばわれわれとしては文句は出ませんが、この点につきましてもう一度水産課として調査の、いままですの段階を説明していただきたいと思います。それで私の質問を終わります。

○水産課長（谷貝茂生君） 設計の内容を一応申し上げますが、二百二十四坪、内部が二十区画に区切られておりまして、資材を入られるようなことになっておりますので間違いないと思つております。

○三番（流山源次郎君） 了解しました。



〇九番（辻田 実君） 最初に四点だけをお伺いいたします。

一つは一八ページ児童福祉費の中の第一九節青少年グループ結成促進事業費補助金一万で十二団体ということでもって説明されたわけでございますけれども、この内容についていさ少しの説明を願いたい。本来青少年グループ結成の育成については社会教育の中で行なわれていくわけでございしますけれども、この青少年グループ育成というのがどういう形のもののなか。この福祉という面で行なわれていきますと補導、保護というのが本来の主目的であるわけでございしますけれども、この関連についてこの補助金をどのように扱っていくのか。たとえば社会教育委員会とか、連携とか、そういうものは当然なされなければならないと思うのでございしますけれども、こうした点についての内容、また補助をしていく段階について連絡機関、決定機関というものはどういう形でされていくのか。この点についてまず一点。

それから一九ページの四款の二目予防費の一三節委託料でございします。ここで検診医師委託料というのが値上がりしたので三十九万二千円の値上がりだということとございしますけれども、この契約関係はどうなっておるのか。そしてどういう形で値上がりになっただけなのか、この医療の値上がり、検診値上がりというのがどういう形でなされて、そしてその契約がどういう形ではね返ってきたのかについては、説明では単に検診料の値上がりによって云々ということが言われましたけれども、この点についていさ少し市の委託契約、それから検診料の関係等について少し具体的に御説明を願いたいと思います。

三番目に清掃費の中のじん芥処理費全体でございします。この点

につきまして現在この土地の所有者が誰であるか聞きたいと思えます。と申しますのは、私は現地をよく見ておりませんけれども、この土地については砂を採取しまして非常に荒れはてておって危険地域だということが言われておるわけでございます。これに對するところのいろんな経緯があるわけでございます。形としてはそういうところにこちらのじん芥を捨てさせてもらって、そしてそれはある程度埋め立てのあれにするということについてはこちらとしてはある程度メリットはあります。しかしながらそれ以前の問題、さらには館山市の開発問題、こういうものとかからんでまいりますと、このような形でもってあそこの土地の修正処理的な内容を含んだものに市がこのような公金を支出してやらなきゃならないというような状況がいいのかどうなのか、そういう点についてはどのように考えておられるのか。その点については私は非常に又聞きであるし、また現地も見えておりません。しかしながら現地の公害というものは砂を取ったあとで非常にひどいということはお聞いております。この点についてこの開発問題をかかなくてかなりの予算が出るわけです。二百六十万というようなものが出ていってしかるべきものなのかどうなのか。この点をひとつ関連をしてお伺いをしたいわけでございます。

次に二一ページ林業戦の中の林地崩壊防止事業工事請負費でございしますけれども、この点についてかに夫婦人村の砂防の云々というものであったわけでございしますけれども、これについては市のほうからの補助は全然なくて、県の補助金と地元の負担金六十八万三千円ということとございしますけれども、この地元負担金はこういう形のもののなか。一般町内とか、そういう民家の人の寄



付金なんなのか、婦人の村そのものなのか。かにた婦人村というのはああいう特殊な施設でございます。そういうところから無理がなかったかどうか、これを集めるについて。あそこについては私たちもいろんな形でもって募金、寄付等をしておりまして、私もあそこに毎年二、三回おじゃまするわけでございますけれども、非常に経営が苦しいというのを聞いております。その中からこういう形でもって県の補助金と地元寄付金という形の中でもって六十何万がスムーズに出たのかどうか。この点についてお伺いをしたいわけでございます。

それから次に二四ページ小学校費の中の畑地区の学童輸送委託料でございますけれども、当初の予算でいきますと片道八百円ということとタクシー四台という貸し切りになったので千六百五十円ということと倍以上に値上がりされて、そして五十三万七千円の補正が組まれたわけでございます。これは先般の説明でいきますと片道が八百円程度のもので千六百五十円ということとをもって、これだけの予算がありますから、当初六十万かだと思えますので倍近くのものになるわけでございますけれども、これはどういう経過でこのようになったのか。ちょっとやはり当初の契約段階についていろいろな問題、準備の不足、そういうものがあったのじゃないかと思えます。この点についてはどうなのか。もう少しこまかく、納得のいくような御説明を願いたいというふうに思っています。

それからもう一つ、長くなりますけれども、学校建築費でございます。これについて工事請負費が九百二十二万二千円の減額になっております。そこでもってお伺いしたいことは、この防音

校舎の工事請負費の防衛庁の補助率は幾らなのか。そしてこの工事請負費の残額の中がちょっとわかりませんけれども、差額と収入のほうにおいて国庫補助金が六百三十六万八千円減っているわけでございますけれども、この割合といえますか、パーセンテージはどういう形で出ているのか、この割合等についていまいし数字的にどうも私の計算から合わないもんですから、その点についての計算等。現実にはこうなっている。どうしてこういう結果になったのか。一つは六百三十六万八千円という減った理由、減らされた理由。それと館山市の工事請負費九百二十二万二千円の減額、これとの相関関係の数字がどうも出てこない。この点について納得のいく説明をしてもらいたいと思います。

以上の点について。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） 一八ページの一九節の青少年関係の点について御説明申し上げます。

これは今回県の社会部の青対局におきまして青少年グループの結成促進事業の補助金という形で実施されたわけでございますが、これは県の新しい試みで行なわれるわけでございますが、内容は団体あるいはグループの横の連絡調整をはかって効果的な運営促進をしたいということで実施されるわけでございます。

それで今回予算の提出にあたりまして、内容を社会教育課とも協議したわけでございます。その結果一応県の社会部であるからというように、福祉予算の中で一応計上したわけでございますが、この青少年グループの關係につきましては各皆さま方の御協力と御理解をいただきまして、非常に各地区とも活発な運動が展開されておるわけでございます。



青少年グループの数を申し上げますと、青少年団体におきましては百六十六団体でございます。その内訳では子供会が百四、スポーツ少年団関係、JRC、これは少年赤十字の関係でございます。これが八つ、それからインターアクト、これはコータリー関係のものでございます。ボイスカウト、ガールスカウト等あるわけでございます。そのほかに青少年団体が二十団体あるわけでございますが、それぞれ本来の目的によりまして自主的活動を、縦の線によりまして活動しておるわけでございます。これは各地区ごとのひとつ横の連絡調整をはかって最も効果的な運営をはかったらどうかというように、県の補助金をいただきましてこの調整をはかりたいというもので、予算をお願い申し上げます。

それから二一ページの一五節の工事請負費に九村の関係でございますが、これは社会福祉の關係でございますので、ちょっと間をとびますが、わかりまして御説明申し上げますので、ちょっとさいます。御承知のようにこのかに九村は四十年の二月に設置されたものでございます。社会福祉法人として全国にただ一カ所の施設であるわけでございます。施設長が深津文雄さんという方でございます。この建設にあたりまして、本来は国の予算で設置されるべきものであったようにございますけれども、いろいろな事情がございまして、この施設長がいろいろ各企業体等の、国の補助等をいただきまして、あそこの場所に設置されたわけでございます。内容は御存じのとおり売春防止法によりましてところの関連の施設でございます。長期の施設であるわけでございます。この施設の中には館山市はもちろんでございますが、千葉県内の

者は一人も収容されておらないということございまして、全国からきているわけでございます。百名定員ということで現在八十八名収容されているわけでございますが、先般九月の集中豪雨によりまして、山のくずれによりましてその補修に非常に困難をきたしておるわけでございます。この関係で市長ともいろいろ御心配いただきまして結果的には県の予算、国の予算等をいただきましてこういうような形になったわけでございますが、そういうようないろいろ経過がございまして、施設長の国との関係等もあつたようにございますが、そういうようなことで一応お願いしたわけでございます。

以上でございます。

○保健課長（網島憲治君） 検診医師との委託料につきまして御説明申し上げます。通常県と千葉県医師会等で話し合いをいたしまして、その年の予防接種等の雇い上げ料といいますが、そういうたようなものを決定しておるようでございます。本年この予算を作成するときにはまだその金額が判明をいたしておりませんので昨年と同じ額であつたわけでございますが、その後医師会との話し合いが進みまして四千五百円以上ということで、当市は四千五百円ということで去年の三千九百円から四千五百円に引き上げたわけでございます。

それから契約でございますけれども、館山市の開業医の先生はほとんどでございます。それから例外的に豊房地区のうち神余が従来とも白浜の先生をお願いしてございますので、その方が一名契約をしてございます。

以上でございます。



○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 第一点の土地所有者についてお答えいたします。錦織あきさん、安田勝美さんの二名でございます。

それから御承知のとおりいままでの焼却灰、あるいはなまものの、燃えないものの処理を埋め立てによって処理してきておるわけでございますが、いままで西長田の部落の五名の名義の約四反歩の土地を借りて埋め立てしておるわけでございますが、ごみの量が昨年より一日十トン以上と増大してきたため、現在の西長田の埋め立て地があと幾ばくもなく、埋め立てる余地がなくなってきましたために一昨年から手配いたしました、ほうほう捜し求めておったわけでございますが、先ほどおっしゃられましたとおりに神戸方面に砂をとったあとの穴があるということを開きましたので、四十六年度あたりから捜し求めて交渉しておりましたんですが、なかなかその交渉が成り立ちませんでございまして、私どものほうとしては、現在毎日出る焼却灰、それからなまもの、そういうものを、埋め立て地がなくなると現在の正木の処理場の裏へ集積ごりを掘っておりましても、回りに御承知のように団地ができ、あるいは田畑の公害になるものになるわけでございますので、これをなるべく定期的にそういう埋め立て地へ持つていって整理をしたいということで、開発関係等は全然そういうことは考えないで、われわれはただそういう土地をかねてから捜し求めておったわけでございまして、それをたまたま見つかったので交渉したわけでございます。

○学校教育課長（小宮義夫君） 二四ページの畑地区学童輸送委託料の五十三万七千円の追加の問題でございしますが、これは六月の

市議会におきまして五十万六千円の予算を議決していただいたわけでございます。これは一台八百円という積算でお願いをいたしたわけでございます。と申しますのは、通常運賃で積算をいたしまして畑と豊房小学校の片道運賃八百円ということの積算でいたしたわけでございます。

それが契約の段階になりました、ハイヤー協会と協議をいたしたわけでございますが、台数の関係とか、常時確保が困難であるという、まあ台数の問題とか、運転手の人数の問題とか、いろいろ整備の上からも安全確保の上からも貸し切り制を採用してもらいたいということでした。

貸し切り制ということはどういうことかという和一時間、または十五キロまで千五百円、それをこえて三十分、または七・五キロますごとに五百五十円、これを積算いたしますと館山駅から畑ということになりました千六百五十円という計算になってまいりました。そこでこのたび追加をお願いしたいという段階になったわけでございます。以上です。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 二四ページの一五節の工事請負費におきまして、館山小学校の防音改築工事費におきまして九百二十二万二千円の減額補正をしたわけでございますが、これは予算編成時点におきまして館山小学校の設計が四十五年になされたわけでございますが、その設計時点におきまして二〇%増しをもって予算を組んでおいたらというふうな国の指示に基づきまして当初予算の一億九百七十二万二千円なるものは組んだわけでございます。しかし現実には本年度に入りまして契約を結びました段階で一億五十万、この工事費で工事事業者と契約が結ばれました



ので、この余剰が生じたのでこの際ここに減額したわけでございます。

それから歳入面の減額でございますが、当初予算におきまして七千三百十五万五千円を組んでございますが、過半国のほうから六千六百七十八万七千円、この範囲内で国庫補助金を交付する旨の内容でございますのでこれを補正したわけでございます。このいきさつでございますが、防音改築にあたりましては現状あります校舎に防音を施して改築する、こういったのがその趣旨とされております。そのために防音を必要とします教室とか、その他の部屋につきまして補助金の交付があるわけでございます。それは工事費の七五％でございます。しかし渡り廊下とか便所とか防音を必要とされませんものについてはその補助金がつかないわけでございます。

それから、一方現有の校舎につきまして文部省の基準に照しまして不足します部屋等がございますれば、その折その建物の本体については市単独で建設しろ、しかし本体に必要な諸経費については一〇〇％補助する、こういった一つのきまりがあるわけでございます。で、その文部省の基準にも該当しない市の任意の増築にかかわりますものについては、市単独で工事をせざるを得ないわけでございます。そういった行きがかりがございまして、この内示を受けまして歳入の六千六百七十八万七千円の明細につきましては、現在のところどこがどのように減らされたのかちょっと見当がつかないのでございます。

今年度館山小学校におきまして手がけました面積におきましては総面積が二千九十九平方メートルでございます。そのうちただ

いま申し上げました改築に七五％の補助金対象となります。要するに改築面積でありまするが、それが千八百十二平方メートル。

それから文部省基準に照しまして不足している、それについての意志でそれをつくりたい、こういった意向を示しました面積が二百九十九平方メートル。それから補助金の対象となりません市単独でつくらざるを得なかった面積、これが七十六平方メートル。こういったことになっております。

以上でございます。

〇議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十八分 休憩  
午後 一時 三分 再開

〇議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十三名。休憩前に引き続き会議を開きます。

〇九番（辻田 実君） 先ほど何点か質問したわけでございますけれども、再質問をいたしたいと思ひます。

第一点目の青少年グループ結成促進事業でございしますけれども、答弁によりますると社会教育課に相談してこれらの申請処理について行なうということがあったわけでございますけれども、この点については十分じゃないような気がするわけなんですけれども、どの程度やっておるか。さらにお伺いしたいと思います。特に私は今回の社会教育委員になったわけでございますけれども、四月に一度総会が開かれましたとして社会教育委員の委員長、副委員長を互選して、その後一回も開かれておりません。今回社会教育委員会など開かれないものかなあとおもってましたところ



が、二、三日前に連絡がきまして、成人式の運営について云々という案内状だけがきております。当然このような問題等もその中に踏られて審議されていくべき性質のものではないかと考えております。こうした点についてはどうなのか。社会教育課に連絡してあるということになればもちろんそういう社会教育法に基づくところのいろんな社会教育団体の連絡調整、さらには予算、そういうものについていろいろと協議していくんだと、諮問において処理していくんだという社会教育法に基づくところの法令があるわけでございますけれども、そういう点が少し省略されておるんじゃないかという気がいたしますけれども、これらの点についてはどうなのか。社会教育課長も交代したばかりでもってそういう期間がないしろ、ちょっとその期間があきすぎて年度も残すところ少なくなってきたいてるわけでございますから、こういう問題ををはかる、そういう問題も当然はかられてしかるべきだと思ふんですけれども、この問題についてはそういう必要性がないものかどうか。社会教育課とも相談したということでございますけれども、相談したとなるとこういうようなグループ結成促進の補助育成をする場合に社会教育委員会等にかかなくてもいいのかどうか。こういう点についても機関が十分活用されないような気がするわけでございますので、この点について再質問いたしたいと思います。

二番目の検診医師の委託料については了解をいたしたいと思ひます。

三番目の私が質問いたしました清掃費、佐野埋め立て地でございますけれども、地元の人の好意で行なわれたということでもっ

て、その点については私は了解いたしますし、感謝もいたしたいというふうに思います。そこで私は二点についてさらに質問したいわけでございます。

まず第一点はあの佐野地域についてはかなり砂を採取したあとが相当あるわけでございます。私が乱取、あまり取り過ぎということをやると語弊がありますけれども、そのような感もするくらいであります。また砂をとったあとの処理が十分じゃない、したがつてあそこから雨が降ると砂が流れて田畑を汚したり、川へ砂が流れ込んで川の底を埋めてしまふ、こういうようなことが非常に著しいということが出ておるわけでございます。たまたまそういう問題と今度の埋め立てとは関連がないようでございますけれども、佐野地域についてはこれはひどいなあとと思われる採取あとがかなりあります。近いうちに現状に復すというようなことになるかと思ひますけれども、そういう中において今後館山市はそういう開発したあと、そういう砂をとることはいいと思ひます、とったあとは公害が起きないようにしなければならぬと思ひます。それは私は十分じゃないような気がいたします。この点についての見解を伺いたいわけであります。

さらに関連して、穴を掘った行為によって穴を掘った中に埋めるわけでございますけれども、残灰を埋めたあとと相当な穴になります。じん芥処理場から出たところのそのものを埋めて、そのあとの処理の仕方によつては雨が降ったらそこがぐちゃぐちゃになつてしまつて公害なり氾らんの原因になつたとか、さらにはあそこ埋めた灰とかそういうものの成分が地下水に入つてどうかとか、こういう問題が出たら非常に大変なことだと思ひわけでございます。



す。これは市のほうは確かに湊川にあるところのじんあい処理場のあの残灰を処理するのに非常に困っていることはわかります。なんとかしなきゃならぬと思うけれども、あそここの砂地をあれだけ深く掘った中に埋めて、それが埋め立てに役に立つかどうかはわかりませんけれども、それから公害については十分考慮されているかどうか。もしあれが不十分だった場合に市がやったんじゃないかと、俺たちに文句を言う筋合いはないじゃないか、こういうことが関連的に出てくると、非常に問題になっている砂採取あとの現状復帰、今度の総選挙などでも自然破壊をなくそうというようなことを各政党ともうたえておるわけでございます。それが国民の共感を呼んだわけでございますので、そういう点について安易に穴があったから埋めて、砂をかぶせておけばいいんじゃないかと、こういう考えはないと思いますけれども、そういう点についてはかなり専門的な調査ないし対策を立てて行なわれておるかどうか。この点について非常に何か当然のことのように思いますけれども、しかしながら当然なことがたまたま大きなミスを犯すことがありますので、私は一応この点について再度納得のいく説明をいただきたい。

以上の二点についてお伺いいたしたいと思います。

○福祉事務所長（斉藤武男君）　まず第一点の予算編成上についての社会教育課との連絡というようなことでございましたんですが、これは単に事務的な取り扱いについての連絡調整をちょっと申し上げたということでございますので、先ほどの私の答弁で間違いがございましたら訂正させていただきますと思います。

これは予算で結局議決がいただけるならば、その後の範囲が非

常に広範囲にわたっておりますので、その取り扱いについてはまたいろいろ社会教育課とも基本的な内容につきましての協議をいただいて実施してまいりたいとかように考えております。

○商工観光課長（鈴木　力君）　佐野部落の砂の採取につきましては一応砂利採取法が適用されて、これにつきましては県庁の工業課が所管でございまして、その窓口が安房支庁産業課が行なっているわけでございますが、市におきましても私も商工観光課のほうで、一応地元としての市長の意見を述べる、こういうことで事務の一端を担当しているわけなんです。現在佐野部落につきましては三企業からここ数年の間に申請がなされて、現在許可に基づきまして作業を終了したと、なお一部におきましては採取が行なわれているわけでございますけれども、いずれにいたしましても砂利採取法につきましては、本来といたしましては災害を防止する、こういうことが狙いでございまして、市といたしましても申請があった場合には現場をつぶさに調査いたしまして災害の起こらないように、あるいは作業の途上におきまして運搬中土砂を道路に落とすとか、そういったことのないようにきびしい対策をもって意見を述べまして進達しておるわけでございますが、あと始末ということでございますけれども、いま申し上げましたとおり、作業過程あとの処理につきましてはできる限りあとで植栽するとかというようなことである程度現状に復する、そういう操作をしていただいているということをお願いしているわけでございます。

以上でございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　穴を掘ったあとの埋め立てにつ



いての公害対策はどうかという御質問でございますが、この点につきましては昨年四十六年度一年がかりで、いろいろと地元の区長さんをはじめ役員の方々、地理に詳しい方々の御指導を得ましてあそこは市の水道資源の場所でございますので、その点を十分研究いたしましたこれでだいじょうぶだということでやりましたわけでございます。

○社会教育課長（佐野哲男君） ただいまの補助金のことにつきましてははいまお話になったとおりでございます。

社会教育委員会のことにつきましてはお説のとおりでございます。今度の会合のときにただいままでの経過報告等をお申し上げる予定でありましたので、御了承願いたいと思います。

○九番（辻田 実君） 非常な慎重な答弁がございましたので、そういうことでもってよろしくお願いいたしたいと思います。

二一ページのかにた婦人の村の周辺の崩壊防止事業でございます。一般寄付金ですね。これは収入の部と関連するわけでございますけれども、ここで地元負担金として六十三万八千円というのがあるわけでございます。これの負担先ですね、これを伺っているわけがあります。かにた婦人の村の施設そのものなのか。施設そのものだったら、かなり施設はきつい運営とそういうものがされておるので、災害のあれに対してそれをやるには、あそこの運営について支障をきたすのではないかと懸念もするわけでございますし、これはあそこの部落、地域一般寄付なのか、寄付金の受け入れ先ですね、そういう点について少しこまかく聞きたい。かにた婦人の村だったらそういう運営上六十万も簡単に出すという

ことはあり得るのかということとちょっと心配になるものですが、その点について御説明願いたいと思うわけでございます。

○助役（島山 伝君） お答え申し上げます。

この受け入れといえますか、寄付をするのはかにた婦人の村でございます。そのために婦人の村で特に付近から寄付をつるというようなことはしないはずであります。それで婦人の村とするとなんとか自力でやらなきゃならないであろうというように、ある程度の用意はあったようです。そこで先般の災害で私も二回ほど行きましたが、非常に気の毒でありますので、県でも農林部、社会部からもきていただいておりますいろいろな心配してもらって、これに適用させて八〇％向こうで出してもらおう。この施設長も大変この程度で済むならありがたいというごとで喜んでもいただくだいわけでございます。決してこれがために苦しんで寄付を集めたということはないはずでございます。

以上でございます。

○九番（辻田 実君） 了解しました。

二四ページの通学の問題でございますけれども、これは当時新聞紙上にもかなり騒がれた問題でございますし、その間においていろいろと私もいろんな方から質問なり意見を聞かされたわけでございますけれども、当初の予算から倍になるということでございます。この形式的な面の説明はあったわけでございますけれども、この内容についてたとえば事故が起きたところの補償の問題とか、それから運送能力、運送ができなくなったというような場合があると思います。たとえば道路が悪くなったとか、そういうような問題についての補償の問題とかそういうのを一切



がっさいが含まれて倍になったということも聞いておるわけでございますけれども、そういう点については当初なくてあとからそういう問題を含んで、しかしそういう問題が出て料金の中に含まれているという形の中で、先ほど説明の中にありましたように館山駅から畑までという計算方法の中でこういうものが出てきたのではないかと、こういうふうに思いますけれども、そこらへんの内容はこの中でもって十分なのかどうなのか。事故が起きた場合、それから輸送の中断された場合とかそういうものですね。そういうものはこの中にどのように含まれておるのか。そういう契約等もこの中でなされたのか、なされないのか。これはなされたか、なされないかによってかなり金額が違ってくるのではないかと思います。そういうふうに思われるわけでございます。そういう内容がどの程度なのか、ある程度はつきりしてもらいたい。場合によればそういう内容にしておいて、さらに来年度の予算等においてはもっとそういうものを含んだ予算を組まなければならぬんじゃないかという面もあるわけでございます。そういう内容的なものがちょっと心配になるわけでございますので、この内容についてどうなのか。どの程度に、どうなっているのか、支障のない範囲内でもっと明らかにしていただきたいと思えます。

○学校教育課長（小宮義夫君） ただいまの御質問で安全につきましては契約の中に入れていただいております。

それから、もし途中道路事情等で運行困難の場合にはどうするかというそういうことも、契約の中にはつきりうたっているわけでございます。

事故の場合は当然これは業者のほうの運送法の補償のほうの条

件にからんでやっていただけということでは話し合いができていくわけですね。

○九番（辻田 実君） それについて特に学童輸送という面で特別契約というものがあるかどうか。こういうことですけれども、その点はただ一般の通常の範囲のものなのか。事故が起きたんじゃ困りますけれども、そういう特別約款というものはなされておるのかどうか。ごく一般的なものではやっているのか。

○学校教育課長（小宮義夫君） 特別に学童についてはこうであるというこの契約はしてありません。

○九番（辻田 実君） よろしゅうございます。

最後に防衛庁の防音校舎の補助についてのあれでございしますけれども、当初予算でもって七千三百十四万という数字が出てきておったわけでございますけれども、これが防衛庁の内示ではなかったかと思うわけでございます。それがとにかく六百万、またその後決定の段階でもって削られるというふうに解釈していいのかどうか。先ほどの説明だと、当初見積りについて七千三百十四万何がしということでもって当初予算に組んだ。その後の内示があつてこれが六百万減ったんだと、こういう説明でございましたんですけれども、この六百万減ったのは決定なのか内示なのか。これが内示ということで先ほど説明があつたわけでございますけれども、内示であるならば、決定というものはその後において若干修正されたものがあり得るのかどうか、この点についてお伺いをいたしたいと思うわけでございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） お答え申し上げます。

当初予算におきましてきめました七千三百十五万五千元、これ



は内示でございせん。こちらで見積りましてのものでござい  
ますから、今回歳入として計算しました六千六百七十八万七千円  
この額は改築工事分、併行工事分、これについてはほほ防衛庁と  
話し合いの済んでおります歳入でございまして内示でございま  
すが、ほほ決定でございませう。

そのほか工事にかかります雑費、事務費、こういったものがあるわけでございます。それは市といたしましては年度末まで至りませんと、その率が明確にならないわけでございます。その関係の増減が今後なされまして、数字の訂正が多少あるんじゃないか。こういったふうに考えます。ですから金額的にはそう大きな差はないと思いますけれども、決定ではございせん。

○九番（辻田 実君） 聞くところによりますと、これは館山航空隊の關係の基地司令と、私どもが数人で国会議員を含んだ中の話し合いの中で出た話ですけれども、防衛対策費というのは国では一本の予算だということを聞いております。したがしましてここに出てくるところのたとえば改築工事請負費並びに二中の設計委託料と、こういう予算の項目というのは防衛庁においては一本の基地周辺整備防音何とか対策費という中の、一本に出てくるというように伺っておたわけでございますけれども、そのような理解はしてもいいものかどうか。事務当局はどういうような形であつて扱つておるのか。先程の答弁でございまして設計料、その他一括してきておるので、個々の内訳については推定というんですか、そういうようなことでやりますということを言っておりましてけれども、それは一本の予算の中であつて、分括についてはまたいろんな積算の中で分けられるものなのか、全然項目の違う

科目の違うものなのかどうか。その点についてあとの質問に關係ありますので、その点についてひとつ御答弁をいただきたいと思ひます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 防衛庁關係の予算につきましては、私よく存じないわけでございますけれども、ただいろいろいまままで交渉過程におきまして工事費と設計費、これは防衛施設庁のほうの予算では区分されているんで、工事費が余つたからといつて区分を設計の必要の生じました地域にふり向けるわけにはいかない、こういった話がいつかの機会に出ましたことを記憶しております。

○九番（辻田 実君） 私はその点について実はここでもつて質問したかつたわけでございます。たまたま偶然の一致か知りませんが、けれども、とにかく工事請負費がこの議場で承認されましたように、計工務店と隨意契約によりまして館山小の一期、二期工事について行なわれておるわけでございます。その中でもつて九百二十二万二千元ですかの減額予算ということでもつて出たわけでございます。たまたまこの額が館山二中の設計委託料九百二十九万とほぼ一致すると、したがしましてこの中から見てまいりますとそこで流用という形がはっきりしているわけでございます。この点について私は流用でもいいんですけれども、この間館山地域、または那古地域、そういうところでもつていろいろな話がされてゐるわけでございます。あまりいい話じゃございません。そういうようなものと何かあまり符合一致しすぎると、こういうことであるわけでございます。こういう点についてはいまの課長の答弁の中でもつて全然そういうことはないということを言われており



まするから、私はこの点についてはそれ以上は触れません。

しかしながら次の点についてこういう問題があるので、その点について答弁していただけるならいたたく、私のほうは質問は質問ということで、意見として聞いてもらうならけっこうでございますけれども、とにかく防衛庁と館山一中、二中とからんでいろいろと交渉にあたっておる方がおるようでございますけれども、ごく特定の方たちが機関を度外視して行なっているということが言われております。

四十六年度の館山市の決算委員会の中でもって一〇番のほうから意見が出されて、当時館山小学校のPIAの会費、交際費においてとにかくまとまった金が防衛庁の折衝費ということで支出されておりましたことは指摘されたとおりでございます。さらに現在館山一中においてPIAの予算をもって防衛庁の陳情費ということについて若干の予算、さらにはそういったものの予算を捻出しなければならぬんだということが役員会において話し合われているようでございます。

それは実際のことを言いますと、役所が役所に頼みに行くのにみやげを持っていかねければというのは汚職であります。しかしながらそれが儀礼的に魚の一匹ぐらい持って行くということはあり得るかもしれません。それは汚職とは言えないかも知れません。しかしそういうふうなたぐいのことが行なわれようとしておる。また行なわれるんじゃないかということが、かなり広範な人たちの間でもって話し合われておるといふことでございます。

さらにその上で私は教育長に特に申し上げておきたいわけでございますけれども、そういう言動を現職の教育委員の中において

公然としゃべった人があるといふことでございます。どうしゃべったかといえますと、防衛庁の予算について予算を組んだけれども今年度予算でもって市のほうで予算を組まなかったために流れてしまいかもしれない。したがっていま陳情にいけばこの予算がもらえるので館山小学校の防音校舎が許可になるかもしれない。したがって行ったほうがいいんじゃないかというたぐいのことを放弁した人がいるわけでございます。そういうことがかりそめにもあったといふこと、そういうようなことが次から次へと尾ひれがついてかなり市民の間に広がっている。私の周辺の人でも、館山小学校のPIAの方でもなんでもありません、学校に行ったところが、二中の建物を建てるために館山小学校の建設費が一万円削られたんですねといふことを、私より先にうわさとして知っておったといふことです。根拠はございませんけれども知っておったといふことです。

たまたま私はこの予算書を見て同じ額が同じように出ているのであ然としたわけです。こういう経過が、現在館山市と防衛庁、そして館山市におきますところの一連の防音校舎を建設する中において、そういううわさが出ておるといふこと、これは単なるうわさでもって過ぎればけっこうでございます。これが一步間違いますとえらいことになるわけでございます。こういう点については十分考慮を払っていただきたい。

いまの答弁の中でもって、私はそういうものと関連性がないと、私はこの予算を見たときにはどうも館山小学校のものが浮いたから、したがって今年度の予算の中でもって同じ系列の予算の流用という形で二中の設計料は組まれたんじゃないか、このように私



は考えておりました。この点についてははっきりさせたいということで質問したかったわけでございますけれども、いまの課長の答弁でもってそういうことは別だということでございます。したがいまして私はそれでもって受けとめますけれども、いま言ったような問題があるということを十分認識しておいてもらいたい。

市長さんにおいてもその点においては十分監督していただきたいというふうに考えております。現に、防衛庁に何らかの形でもって定期不定期にPTAなり町の有志というような形の中でもって正式の機関を通じずにいろいろの交遊にあたっている事実も見受けられます。その回数ほどのくらいかわかりませんけれども、そういうことは非常に今後誤解をまねき、またこういう例についていろいろな問題を起こしかねない原因ともなるわけでございまして、その点について十分の注意を払っていただいて、できるだけ市の機関と防衛庁の機関との正式の話し合いで、手みやげを持っていかないでも話し合える場所です話していただきたい。

このことをお願いしたいわけでございますけれども、そういういた点について御所見があれば伺っておきたい。なければそういう注意をうながしまして、私の懸念をはらしていただければと思うわけでございますけれども、以上御質問いたしたいと思えます。

○市長（本間 謙君） 辻田さんいろいろのことをおっしゃいますけれども、やっぱり大勢よりまますといろんなことを言ったり、いろんなことを言うちよっと一部をとらえてそういうふうにおっしゃるわけでもないと思えますけれども、なかなか作爲的に物事を言う人もいますし、しかし私はそういう市民に聞かれてもいいじゃないようなことは絶対いたしません。儀礼的なことはしかたがない

けれども、そんな物を持ってどんどん頼むというようなこともいたしておりませんし、いまPTAというけれども、PTAの方々はこっちから頼んだわけではないですよ。PTAという存在が、私はPTAなんていうものは必要ないと思う。そういうこともやらなければ能がないような、運動をしてくれるのはありがたいけれども、こういうふうに言われたんでは困っちゃいますよ。PTAなんか動かなくなつてこつちでやっておりますから差しつかえないわけですよ。PTAは何も用がないからそういうことを心配して、二中の場合も来ますよ、来たらあつちはやんなくなつてこつちは正式にやっているんですからいいわけですよ。世の中はいろんなことを言う人がいますけれども、やっぱりよく究明して御判断を願っていただきたいと思えます。

そう市民から指摘されて言われることは決していたしておりませんが、直接われわれにお聞きを願うことが一番いいと思えます。巷間はいろんなことを立場立場でおっしゃる人もいますから、それを信ずるといふなら信じてもいいけれども、正しくやるように指導していただきますから、その点はひとつ。いずれの場合でも私は正しく正確にやるようにやっておるわけでございます。

たとえば土木協議会が土木出張所を取り巻いて百七十万予算で市が三十万会費をとられるとか、農業普及事務所が三十五万市が出すと、二年前からこういうものを削つたんですが、それに対してもいろいろ私も圧力をかけられております。市のほうでやることをやらないから道はどののこののと、ふざけるなというんですよ。政府が国政でやるのを土木出張所がやらないでどうするんだ、いろんなことをいってきているわけですよ。いろんなことを聞く



とはかに市長のやろうわからず屋で事業の促進が妨げられる面もあるかと思えますけれども、そういう経費というものに市民の税金を私は出すべきものじゃないと思います。土木出張所は県知事のサービス機関だからこの間も言ったんですよ。知事が予算を組んでそうしてやりなさい、われわれの税金から土木出張所を取り巻く、または協議会をつくって飲み食いをして接待費だと思うんですよ。あるいは事業に割りあてて館山で県道をこれだけやったという額の何分ということで割りあてられているわけです。

それを二年前から、まず私は本当はこうじゃないと思います。みんなが出すものを出さないから憎まれて悪口を言われるより、みんなが出すものでも、議会でもいろいろ御意見が出るでしょうけれども結局は通ると思うんですよ。よそでもやっているから、それでは市長として無責任だと思ふんです。やっぱり必要のないものはちゃんとやって説明を加えて、その線で行く必要はあると思ふていますけれども、そのことについていろいろ有力な人から圧力みたいなことを言われておりますけれども、私はそんなことはだいいじょうぶだと、そんなことによつて土木部長でも知事にでも徹底的にやるからというだけの覚悟を私はしております、そういう御心配になるようなことはいたしませんので、また不審がありましたら直接教育委員会なり私のほうなりにお聞き及び願ひたいと思います。具合悪い点は私のほうもえりを正して御趣旨にそうようにいたしたいと存じておりますから、よろしく。

○一八番(安西益男君) 二点ほどちょっとお伺いしたいんですが、一五ページ交通安全対策推進費のことですが、これは大体人件費が主な予算で計上されておるわけでございますが、御存じのよう

に交通問題は非常に関心が寄せられているわけでございまして、たとえばカーブミラーとかガードレール、さらには各学校に安全教育の施設というようなことも前から要望しておりますし、前教育長さんも逐次設備をしていきたいというようなことも承っておりますわけでございますが、こういった点についても今後の見通しというものをお聞かせ願ひたい。

それから一九ページじん芥処理費のところでございますが、自動車借上料、これは非常に大きな額になっているわけでございます。百八十二万四千円、これは年間にしますと相当膨大な金額、このように感じるわけでございますが、この自動車の借上はブルトリーザーじゃないかというふうに考えられますが、この点の御説明をお願いいたします。

それから長田の不燃物の処理場ですが、これを道路の方から非常にごみの山が見えてまずいんじゃないかというような声をたまに聞かれますが、できれば簡単なかいでもやってもらいたというふうに聞いておりますが、こういったお考えがあるのか。その点ちょっとお聞かせ願ひたい。

○衛生課長補佐(佐山市太郎君) 自動車の借上料についての説明をいたします。

まずその前に焼却場から出る焼却灰並びになま物、つまり野菜、魚、肉類その他なまの物合わせまして一日当たり約二十五立米出るわけでございます。灰が一日十二立米、その他の物が約八立米、これは一般から搬入されるものでありますので、日曜も受け付けている関係上約一カ月に六百立米以上、時によりましてはもっと出る場合もございますが、その関係で実はそれを定期的に集積す



る場所を、いわゆる集積壕と申しました、長さ約三メートル、幅六メートル、長さ百二十メートルの壕に約三千百六十立米ほどの集積場をつくってあるわけでございますが、ごみの量が去年の計算で行ないました関係上二カ月ないし三カ月ごとに西長田では処理しておったわけでございますが、先ほど申し上げましたように去年は一日の平均が四十一トンでございましたけれども、ことしになりまして五十トン以上出ているわけでございますが、そういうような関係上去年の計算で借上料を組んでおりましたが、不足になってまいりましたので、そこでダンプ一台が約七立米でございますが、これを一日午前四回、午後四回の八回といたしまして、これを六台使しまして五日間やりますと約千六百八十立米という計算で運ばれるわけでございます。全部きれいにするには二千七百立米程度以上になる場合がありますので、もっとダンプ及びブルを使わなければなりませんけれども、大体二千立米内外を運びますれば周辺の団地及び田畑には御迷惑はかからないということとで計画をいたしましたので、それに要しますブルの回数が大体正木に二台、現場で一台、現場の道をつくるために一日だけ一台余分にみたわけでございます。そうして共に回送料が三台分あるわけでございまして、それが一月と三月に予定をする二回分の合計百八十六万四千円という程度でお願いするわけでございます。

それから御承知のとおり西長田の処理場も、いま御指摘されたとおりでございますので、その方も合わせて整地するための、前回御説明いたしました県より商工観光課のおかげで無償で借りたピーチレイキと、それから私どものほうの清掃車をいろいろ工夫いたしました、できるだけそれに組み入れましてその整地にあた

らせるためにその燃料代が。

失礼しました次は西長田の回りにさくをつくったかどうかという問題でございますが、いままでは有刺鉄線だけは張っておりますけれども、一日も早く整備をしていこうということでございまして、御指摘のことは来年度に考えておりますのでよろしく願っています。

#### ○体育課長（川上賢爾君）

交通安全対策でございますが、私も幼稚園、小中学校関係に対しましては御承知のように先般から通園、通学路の総点検ということで学校、教育委員会、あるいは土木課、警察、こういったような関係者と総点検をしております。そして学校の御要望、あるいは地域の御要望に即した観点から施設面につきまして検討をして、所管の交通課のほうへ回して、交通課のほうで心配をさせていただいておりますが、これにつきましては施設面につきましては交通課のほうから答弁があらうかと思いますが、先般も実は再度通園、通学路の総点検をお願いしてございます。

それから幼稚園、小学生の低学年の飛び出し事故につきまして、は年末あわただしい時期でございますので特に指導していただきたいということでございまして、各学校の交通安全主任の先生方にお集まりいただきまして、そこでも御要望しますし、校長会、教頭会等につきましても、その点については十分お願いをしております。

なお中学生の自転車通学の生徒でございますが、やはりクラブの帰り日暮れが早いものでございますので、交通事故も心配されますので反射鏡のないものにつきましては反射鏡をとということと



これも各学校にお願いをしているところでございます。

交通安全対策につきましては御承知のように非常に大事な点でございますので、特に各筋筋を通してお願いをしている教育委員会のほうの関係といたしましては以上でございます。

○交通課長（山口 一君） 交通安全対策の施設関係につきまして御説明申し上げます。

ただいま体育課長のほうよりお話しございましたように、交通安全対策上特に学童の交通事故防止につきましては重点として力を入れてございまして、ただいまお話のように四月の全国交通安全運動の期間中市内の全学校の通学路を点検いたしました、その際の要望事項の中に含まれております交通安全施設につきまして現在まで約九〇％程度の施行を完了しております。

その内訳といたしましてはカーブミラー、ガードレール、標識このようなものが主な項目でございます。

なお現在末調整の部分につきましては、所管の異なります県の土木事務所の管理に属するものでございますので、現在それについての促進を県の土木事務所のほうに申し入れてございます。

○一八番（安西益男君） 交通関係につきましては、教育委員会から児童につきましては十分検討されているということでございますので、十分効果のあるような方向にもっていったいただきたい、こういうふうに思います。

それから先ほどの処理場の件でございますが、年間を通して非常にダンプの使用はあるんじゃないかと感じられるんですが、相当な金額になるわけでございますので、市でダンプを用意したらどうかというふうに思われるわけでございます。

それと長田の処理場につきましては、廃品回収の業者があるわけでございますが、その方がダンプを一台買って便宜上、好意的にと申しますが、ごみの処理にあたっているということも聞いてまいります、これは無償でやらしておるのか、あるいは業者が好意をもってやっているのか、その点はどんなふうになっているのかお伺いしたいと思います。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） まずダンプの関係で市でもったかどうかというお話でございますが、先ほど申し上げましたとおり毎日ダンプのたぐいは、当然ブルトーザーが二台必要になるわけでございます、現在の計算からいきますと定期的に月一回程度やればけっこうですけれども、予算の関係上二カ月に一回程度計画をやっていきたいわけですが、当分この方法で仕事を考えているわけでございます。

それから長田のゴミの廃品の分につきましては雑収入として、少額ではございますけれどもやっております。

以上でございます。

○一八番（安西益男君） その廃品回収業者が自分でブルトーザーを買ってそういった処理にあたっているというのを聞いておるんですが、それは無償でやってくれているのか。多少代金を払っているのか、この点はどうなっているのか聞きたいと思うんです。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） その点につきましては無償でやっていたいております。

ただし、廃品そのものは反対にさき申し上げましたように、市のほうに少額ではございますけれども雑収入として反対にいたしております。



〇一八番（安西益男君） 権利金みたいにかつていふといふ

ことは聞いておりますけれども、これは当然業者はブルがなくて  
もいいわけなんです。廃品を、権利金という大げさになりま  
すが、払っているわけになります、やはりあそこを整理するた  
めに好意的にやっているんじゃないかと思いますが、この点はち  
よっと業者になれば相当な金額になるかもしれないし、廃品業者  
の方が好意にやってくれているから無償だというふうに、その点  
がちよっと割り切れないような気がします。業者の方も相当金額  
が高いんで親戚等から借りて買って、あそこは整理したというこ  
とで好意的にやっているというところは聞いておりますが、多少の  
そういった面の予算的な面はあるのかないのか、そういう点ほど  
んなふうに考えておられるのか。

〇衛生課長補佐（佐山市太郎君） その点につきましてはまだ始め  
たばかりでございますので、いろいろ調査いたしましてその結果  
によっては予算をお願いする考えております。

〇一八番（安西益男君） 了解。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市民の要望がありますので二つばかり  
聞きたいと思いますが、先ほど辻田議員から質問のあった学校の、  
畑の学童輸送の問題ですが、市にはマイクロバスが二台あってあ  
まり利用もされてないというように市が民が見ていて、ハイ  
ヤーで学童を運ぶのは不経済ではないかということで、マイクロ  
バスをつかって学童の輸送をしたらどうか。これは二台あって、  
たとえば学童ですから、毎日のことですから一台は学童の輸送を  
やっても、時間的には中間があくわけですから、二台あればやり  
くりがつくようにも考えられますが、そのへんどういうふうにお

考えになっておられるのか。

もう一つは観光課関係のことになります、補正予算には関係  
がありませんが、海岸の業者が観光的な立場に立って清掃協議会  
というようなものをつくって海岸の清掃にあたっているようにご  
ざいますが、これは館山市が観光的な立場に立って、常時海岸を  
きれいにするということを行なっていないために、こういう民間か  
らの運動が起きていると思うんです。そういう点では市のほう  
の観光施策といえますか、そういう点では積極的にないというふ  
うに考えられますので、この観光業者の清掃協議会ですか、そう  
いうところとマッチして海岸の清掃、そういうようなことについ  
てこれは来年度の予算等の関係もありますので、どのように考え  
ておられるのか。

この二点をお伺いしたいと思います。

〇商工観光課長（鈴木 力君） 第二点の海岸清掃のことござい  
ますが、先般北条海岸の周辺の民宿の方、あるいは旅館の方等観  
光業者の方で館山北条海岸観光推進協議会という会が結成された  
わけでございまして、この会の結成につきましては、結成の前に  
私どものほうへまいりまして趣旨等についてお話があったわけで  
ございますが、非常にけっこうなことだということで賛同したわ  
けでございます。

あくまでも地元の方々は自分たちの手によってきれいにしよう  
じゃないかということでございますので、非常に市といえしまし  
てもありがたいことでして、ぜひひとつその線をお願いしたいと  
いうことでございました。

それで、いままでも海岸清掃につきましては、市が直接清掃人



夫を雇い上げいたしましたして、夏場におきましては定期的、夏以外のシーズンにおきましては隔月とかということで漸次行なってきたわけでございますけれども、やはり海岸清掃というのは絶えずきれいにすることはむずかしいわけでございまして、一斉に清掃を行なってもあと風が吹いたり、あるいは豪雨という場合には一瞬にしてごみの山になるわけです。これを絶えずきれいにするには緻密に努力しなければならぬわけでございまして、そういう点からも地元の皆さんが積極的に、自発的にやってくださるということにつきまして、ぜひひとつそういう線でお願ひしたいということですが、ただ今後におきましては地元の皆さま方の御協力だけでなく、市としても一そういままです以上に清掃につとめるということで、予算面におきましてもそういう線で検討しておるわけでございます。

○財政課長（長谷川広治君） マイクロバスを私どものほうで運営しておりますので、その関係で補足的に説明して、また教育委員会から答弁もあらうかと思いますが。

実はマイクロバスで輸送するという計画は一応あったわけでございますが、市のマイクロバスも非常に使率、あるいは時間の関係等、それ以上に開始をいたします時点で畑への道路がマイクロバスを年中通すような状態ではない。運転手ともいろいろ折衝したわけでございますが、ちょっとぬかるみ等がありますと非常に危険であるというような状態でございまして、もう一つあの道は細い道でありますので、こちからのぼっていく、あるいはくだっていくにしても、途中で車と出会うと交換ができない。そうなりますと学校への子供の到着時間が遅れるというようなこと

等を勘案して、やむを得ずハイヤー輸送ということにいたしましたわけでございます。

本年度御承知のとおり畑に対する工事が計上いたしてございますので、あの道が整備された時点で、いわゆる来年の三月以降ということになります。それ以降になればマイクロ輸送も可能であるというふうに考えております。それまではそういういろいろな関係から、やむを得ずハイヤー輸送ということにいたしましたわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 海岸清掃の問題では市のほうより民間のほうが積極的なんで、ただそういう民間の協力にまつということじゃなしに、市のほうでも海岸清掃については今後とも人夫をたのんでやるというようにを言っておりますから、

前に清掃の問題についてパトロールをしてきたないところを清掃するということを市のほうで発表しておりますが、その後パトロールもうまくいっているとは聞いてないわけです。特に海岸は観光的に重要なことでもあるし、若潮国体も控えて観光客もふえるというような中で、いっそう海岸の清掃というのは大事になつてくると思うんです。北条館山、これは那古のほうまで含めるとかなり広い地域ですから、目を離すとビニールとかそういうものですぐ汚されるという問題もあって、パトロールを常時やってきれいにするというようなことをやらないとすぐに汚れてしまつて、外来者が来ても本当に館山はきたないということでは不評を買うものになりますから、パトロールして清掃するというようなことをやるという考えがあるかどうか。その点をひとつ。たとえばそれをやるとすれば来年度の予算ではその分をやはり見込まなけ



ればならないということになると思うんです。

それからマイクロバスの問題では、財政課長の説明で道路をよくする時点で考えなおすというようなことでありますから了承いたしますが、いま普通車でも通っているわけですからマイクロバスが通れないということはないと思うんです。ただ雨が降った場合に道路が悪くなるという危険性もありますので、道路をよくするということをひとつ土木課のほうでは考えて、答弁ではそういうことになっていますがその点はひとつしっかりやって、道路が来年三月あたりによくなる時点でマイクロバスに切り替えるようにひとつお願いいたします。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　ただいまのバトロールして海岸の清掃並びにこの清掃につとめるというようなことでございますが、現在私どものほうのバトロールは二人の監視員を置きまして常時バトロールをやっておるわけでございますが、これは主としてしまして不法投棄を重点的にやっております、その不法投棄の件数というものが現在あるわけでございますが、そのつどにこれを解決する、あるいは清掃して正木の処理場にもっていくなりして処理していくわけですが、海岸については今後観光課とタイアップいたしましたできるだけ私どもの方も、国体というわけではございませんけれども、なおさらに私どものほうも引きしまつてひとつ海岸の清掃にあたりたいと思います。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　了解。

○二二番（田村源治郎君）　二中の学校のことでございますが、二中がこの委託料を九百二十九万として、これが文教委員会でも建設委員会にでも、ただばく然と委託をやっているということじゃ

なく、なんらかの委員会を設けて内容に対して委託料を出す、こういう学校をつくる、こういう内容性に対しというふうに説明の委員会をやったかどうか。

その点と、歳入において二中は防音改築五百九十七万五千円もらっている。そして予算には組まない、支出では書いてない、いかになるのか、その点をはっきりお答えをお願いしたいと思います。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君）　お答え申し上げます。

二中の設計費、今回組みましたのは国から今年度その設計費について補助金を交付する旨の指示がございましたのでここにお願いたしましたわけでございますが、現在設計の方法について検討中でございます。今回この予算決定願いましたら正式に入るはずでございます。その段階において建設委員の皆さま方に御協議をお願いしたいと思います。

それから補助金でございますが、補助金は歳出に見合いましたものでございます。

○二二番（田村源治郎君）　いま委託料を組んでから委員会にはかると、組まない前にはかるのが当然である、組んではかるということとは間違いであろうと思う。組んで一千万かかるんだから、あんた方は一千万でいいということだったら議員はどうするんだ。組んじゃってはおかるといって一千万はあんただけの見込みでやっておるか。議会監視するものはなはだしいと、一千万だけの材料買うというものはあんただけが一千万、議員は何をやっているんだと、どう考えるその点において。仮りに建設委員長をやっているが何の話もなく、一千万になるんだからよろしくお願いしますと当然言うべきがあたりまえだろうと思う。それらによって、一



千万組んじゃってからはかる。議会の軽視が最もはなはだしいんじゃないか。あんた方はどう考えているか。市長はどう考えているか。こんなことをばく然とされては困っちゃいます。見積もりもなく一千万も出してどうするんだかはっきりお答えしてください。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時 八分 休憩

午後二時四十二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

二二番議員の答弁を求めます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 先ほどは説明が至りませんで申し訳ございませんでした。改めて御回答申し上げます。

二中の設計関係につきましてはまだこまかな数字は確定してはおりませんけれども、多分に流動する数字ではないかと思えますけれども、現在までかたまっております数字は総面積が六千五百五十平方メートル、これに對しまして現在の防音校舎を建てますにあたりましての一平方メートル当たりの工事単価が大体五万四千円見当になるかと思えますので、これをかけまして総工費が三億六千万見当になるわけでございます。

防衛施設庁のほうの設計費は工事費の二・六二五％、これが定められている数字でございますので、これをもちまして計算いたしますと設計費といまして一千九十万円が計算されるわけでございます。今回ここに提出いたしましたのはそのような数字でございますが、こまかなものにつきましては今後委員会を通じて御審議をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○二二番（田村源治郎君） さっき私が質問したけれども、じゃあんた方はこれは架空であると言ったけれども、内容の市でもって架空ということは失言取り消しするのか、ないのか。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） ことは誤りまして申しわけございません。

○二二番（田村源治郎君） してみると、地盤とかそういう測定はなくてただ設計委託、三億六千万に對してこれを出してやっている、あそここの地盤だとか調査費は全然必要がないのか。その点において調査料というものは出してないけれども、その点において調査費百万なり百五十万の必要性はあるのかという点において、ただ設計委託料で余裕はないのか。その点においてどう考えておるか。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） お答え申し上げます。

ただいまの設計料の下に地質調査委託料としまして八十万計算されておりますが、これは一本二十三メートルぐらい、これは全国的な地質調査の平均値でございますけれども、一本十六万円として五本分の額が掲載されております。

○二二番（田村源治郎君） 了解。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。よって委



員会の付託は省略することに決しました。

これより討論を行ないます。本案に対する討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論は省略されました。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第八、議案第七十七号乃至七十八号特別会計補正予算を一括して議題といたします。

御質疑を願います。

議案第七十七号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算（第一号）

議案第七十八号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計

補正予算（第一号）

## 質 疑 応 答

○二三番（菊井敏博君） 館山市簡易水道に関連してお聞きしたいんですが、よろしいですか。

これから私がお聞きすることは場合によっては非常にむずかしいんですが、これは現在の担当課長さんではないでしようけれども、できたら市長さんの御意見をお聞きしたいんですけれども。十数年前でしたか、当時の吉田水道課長のときだと思えますけ

れども、現在見物のうしろに鉈切水道施設が建っているわけですが、第三者が調べてみてそこに水道施設が建っているということでも、これはどういうわけだということの問題が起きたんですけれども、この水道施設について賃借または売買の話がつけばよろしいですけれども、もし万が一十年間そのまま放って置いたということになって、感情がこじれて話がかない場合市長はどのような措置をとるか一言お聞きしたい。

○水道課長（大嶋重義君） ただいまの御質問でございますが、私のほうからお答え申し上げたいと思います。

ただいまの御質問は現在西岬簡易水道、これは元は鉈切簡易水道でございますが、その配水池が東小学校の向かい側の山の上にあるわけでございます。この配水池の大きさは百四十四トンの水を入れるものでございます。この敷地が建設当時山の持ち主が、相当当時のあれは建設期成同盟というのができておりまして、それが主体になってそうしたものは一切心配するというところでやられたのだそうでございますが、その当時もその建設同盟の会長、あるいはその関係の部落の役員等にもいろいろと相談し、また調べたそうでございますけれども、場所が入りくんであって、図面の上でも現地の面とはっきりそのへんがわからないということ、そのままだなっているということでございますが、ただいま御指



摘のとおりその場所につきましては広さは約三十坪程度、わずかでございませうけれども、その地域が借り上げでもないし、それから買い上げでもないという形で現在来ておるわけでございます。

この件につきましては、私も水道の仕事を担当いたしましたことになるものですから、そういった点につきましては調査方をさせていただきましたでございますが、なかなかわからなかったんですけれども、最近になりました、実は先般西岬地区の市民の要望を聞く会に出ましたときにこの質問が出たわけでございます。ちょうどその会を開く直前に地元の人から、実はあそここの山の配水池のところは高性寺というお寺の土地が大部分で、高性寺で屋根なおしをするのに金が必要んで、その山を売りにかけているから、市のほうでいままでもそのままになっているけれども、早く措置したらどうかというような情報を提供されました、それで、はっきりしたんで早く私どももその持ち主等を調べ、また現場も見て対処するということで、実は先般山の上を係員を派遣して一応調査いたしましたわけでございます。

それで御指摘のとおりその山は大部分が高性寺のもので、そのものは現在不動産業者の方のように聞いておりますけれども、買収されたということでございます。あと一部のほうは一名ないし二名のほうの地所が入り組んでいるというようにございまして、私どももこの点につきましては大事な施設もあるものでございませうし、施設が施設でございまして地主が判明次第に一応買収という考え方で、来年度予算にもこれを計上して措置をいたしたいというごとで考えております。

なお、買収された方との折衝はどうかということでございますけれども、まだ新しく買われた方は折衝はしておりませんけれども、これからそういった方がはつきりとわかってきた次第に折衝して、あつた公共施設、しかも水道施設でございまして、全力を尽くして御了解をいただいて市の施設に譲りわたしていただくようにお願いしたいと、このように考えておるものでございます。

〇二三番（菊井敏博君） 課長さんの話で納得はしてくると思うんです。ただ一番心配なのは、一つの事業計画をもって買収した人が、山のところにそういうものが建っていたと、もう少したつと第三者の手に渡るかもしれない、緊急に仕事をやらないと、まだ館山市民の手にあれば話がつくと思うんですけれども、この第三者に渡りますと、こういう事態を知って悪用されると非常にむずかしい問題になるんじゃないかと、非常に憂うる問題ですから、早くやってもらいたいということが私の要望なんです。

それと同時にほかの所にもそういうところがあるかないか再点検してもらいたいということを、私市民の一人として心配するものですからお聞きするわけです。

話はつくと思いますけれども、万が一そういう問題がこじれた場合、市長はどういう立場をとるのかということをお聞きしたわけです。市長さんどうでしょうか。十何年もたっておりますので。

〇市長（本間譲君） ひとつ御心配願って、そういう高いことでも困りまじょうけれども、妥当な値段でひとつせひ市のほうへ譲っていただきたい。私も無責任のようですけれども、菊井さんか



ら伺って初めて知ったんですよ。期成同盟会があって、地元でやって、ああいうことになって決して無断でやったわけじゃないんですよ。ですから地元の方々が、この話し合いていったわけでございますけれども、ひとつなんとか御心配願って買収をしなければならぬと思いますけれども、話がつかなければほかの方面でつくってもやむを得ないでしょうね。高いところでなくたって圧力をかければ下でもいいわけですから、あんまり高いことを言われたんでは困りますけれども、なるべく皆さんの御心配でまああとという値段ならけっこうだと思えますが、ぜひ譲ってもらって支障のないように、これは公共施設でございますから、個人のもうけ主義ではございませんので。また菊井さんのほうも御協力をしたいだきまして、市のほうで取得できるようにこちらからいまま課長から申し上げましたとおりにやりますから、よろしくどうぞ。

〇二三番(菊井敏博君) わかりました。一日も早く、私の調べた範囲ではよその会社にたのまれて買収しているという話だものですから、第三者にわたらないうちに解決のつくようにお願いしたいと思います。

〇二〇番(君塚喜三君) 私関連質問としてひとついたしたいわけなんです、過ぎた九月の定例会市会で通告によって私から要望いたしました早急な緊急医療体制の確立、この問題についてその後経過と見通しをひとつ伺いたいと思います。

〇保健課長(綱島憲治君) お答えいたします。

その後私もいろいろ調査をしているわけでございますけれども、現在の医師会の考え方といたしますと、私のほうでも補助といたしますか、運営といたしますか、そういう面からいけば現在の医

師会病院が一番適当なところのように考えているわけです。現在の医師会の病院は、そう緊急のものがある程度それにふさわしいような設備を、現在のところもっていないわけでありまして。したがっていましてそれにはそれ相当の設備をしなければならぬ。こういうような考え方から、現在のところそういうものを仮りにつくった場合にどういうふうな補助金が出るだろうというふうなことでつい十日ぐらい前ですか、厚生省へ医師会の人が行っております。それともう一つは、このような施設には小型自動車ですか、その利益金からの寄付金もあるようでございます。それについての打診もしたようでございます。大体その市の補助金というのが、来年度は一杯だそうなんです。ですからもしやるとすれば再来年度、そういうものに入りこむ余地がある。しかも金銭的にもかなり現在医師会のほうで構想しておりますのは金額的に張るようでございます。

それはそれとして、別にこちらのほうがそういうことをやっているわけではございませんので、それはいずれにしても、そういう時点に至りますればもう少し検討しなければならぬと思いますけれども、現在のところはそういうことでやっております。

一方、それまでの期間をどうするんだということでございますけれども、これは現在市内の三つの医療機関に医師会の協力をお願いいたしまして、現在のところ支障なく行なっているようでございます。

〇二〇番(君塚喜三君) 了解

〇議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略



○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会の付託を省略して直ちに採決することに御異議と  
ございませんか。——御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。——御異  
議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

陳 情 書 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第九、陳情書を議題といたします。

陳情書の朗読を願います。

（書記朗読）

質 疑 応 答

○二一番（鈴木市蔵君） ただいま陳情書の朗読がありました、  
そのとおりであります。

これは去る九月十五、十六日ですか、その前に昭和三十一年ご  
ろだと思えますが雨が、ちょうど石井議員の前なんです、がけ  
くずれがあつて、福富さんという方の住まいがあるんです。その  
裏に若夫婦が住んでおつたが幸いそのとき外出していた。そうい  
うわけでずっと雨の降るたんびに石が落ちて、そのときは隣りが  
くずれたんで、市の交通課長さんのお骨折りでもって県から二名、  
土木出張所から二名まいりまして調査をもらつたんですが、  
この程度のもんなら県、国でもって何とかなるんじゃないかとい

りようなことをおっしゃって帰って行つた。私はちょうど市会が

あつてその席上にいなかったんですが、それで部落の方に聞いて  
当然この予算が県、国でもらえると地元館山市の負担金というも  
のが発生するんだ、当然予算の機会ですから、陳情書を出して  
善処方をひとつお願いしようという形で、本日ここに陳情書提出  
したような次第でございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御発言ありますか。——御発言なし  
と認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本陳情書を委員会付託並びに討論省略、採択いたしますに御異  
議ありませんか。——御異議なしと認めます。よって本陳情書は  
委員会付託並びに討論省略、採択と決定いたしました。

日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） ただいま採択を決定されました陳情書に  
対して、議会運営協議会の各位より意見書が提出されました。

この際本意見書を日程に追加し、直ちに議題といたしたいと  
思います。これに御異議ありませんか。——御異議なしと認めま  
す。よって日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。  
意見書案を配付いたします。配付漏れはありませんか。——配  
付漏れなしと認めます。

議 案 の 上 程



○議長（吉田勇治郎君） 意見書案を議題といたします。明読願います。

（書記朗読）

発議案第八号 急傾斜地崩壊危険区域指定及び県営による崩壊防止工事施行に関する意見書の提出について

### 議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の説明を求めます。二番議員林豊君御登壇願います。

（二番議員林 豊君登壇）

○二番（林 豊君） ただいま議題となりました発議案第八号急傾斜地崩壊危険区域指定及び県営による崩壊防止工事施行に関する意見書の提出について提案理由を申し述べます。

本案は先ほど採択と決しました陳情書に関連をいたしまして提出をいたしましたものでありますが、お手もとに配付の議案にございますとおり、去る九月の集中豪雨は当市にとって記録的な雨量となり、市内全域にわたって被害が発生しまして、日ごろの防災対策の重要性を改めて痛感いたしましたところであります。

特に本意見書の区域につきましては、すでに市当局におきまして県の危険区域台帳に登録のため報告を行ない、なお那古区域につきましてはその準備態勢にあるとのことですが、予期できない災害に備えて地域住民の不安の解消をはかり、公共施設の安全を確保する意味からも、急傾斜地崩壊危険区域として指定を受け、一日も早く県営による崩壊防止工事が施行されるよう、七名の賛成者を得まして意見書案を提出いたしました次第でございます。

なにとぞ満場の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。提案理由の説明といたします。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） 本案を委員会付託並びに討論を省略し、採決するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 閉 会

午後三時十一分閉会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって会議規則第七条の規定により本日をもって第四回市議会定例会を閉会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。よって本定例会はこれにて閉会することに決定いたしました。

○本日の会議に付した事件

一 議案第七十号乃至議案第七十八号

一 陳情書



一 日程追加 発議案第八号  
地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

青島一郎

館山市議会議員

安西益男

館山市議会議員

和田一郎



